

回 会 報

158号

新日本美術協会

事務局
横浜市港南区港南台

1-39-5
鈴木忠義方
TEL045-832-0504

編集委員
小高峯夫
富岡ネム
大石 亨
四方公子
早田美智子

原稿常時募集
次号平成29年8月予定

新日美発展に向けて一歩前進

事務局長 鈴木忠義

当会も昨年四十周年の記念展を実施し、中堅美術団体として次の五十年を目指し、その地歩を固める段階に入ったといえます。

ここでは事務局より会員に、新日美が何をサポートできるのかに焦点を当て委員達と意見を出し合ったこと発想豊かな委員の具現化できそうな構想、実現が見込めることを述べたいと思います。また会員皆様からのお知恵も借りてより良い新日美にしていきたいと考えます。

新日美会員であるメリットのひとつとして、担当委員の努力により会員作品のネット販売サイトを立上げる運びとなりました。入会し会員になれば、自分の作品をネットで販売する機会が持てるのです。すばらしいと思います。

スケッチ会は既に実施していますが、一泊程度のスケッチ旅行を今、検討しています。メンバーで画評会が出来るのは魅力的できつと勉強になります。

四十一回展より参議院議長賞、衆議院議長賞の公的な新しい二つの賞が貰える事になりました。新日美展にこれから出品しようとする一般応募者、会員に出品や制作のモチベーションになる事でしょう。

今、どの美術団体でも直面しているのが会員の高齢化です。これは中長期的に見て大きな課題です。当会でも高齢者の退会申し出が多くなっています。総会の議決案件ですが、事務局では対応策として、五年以上の在籍会員で活動継続ができなくなった会員に対し、永年会員という制度を設けたいと考えています。

今後、事務局としては会員のメリットとなるサポートを順次行いたいと考えていますので、皆様のお考えも事務局へお寄せ下さい。よろしくお願ひします。

第四十回記念新日美展 京都巡回展開催される

平成29年3月29日から4月2日までの5日間、京都府京都文化博物館5階展示室に於いて京都府及び京都市教育委員会、京都新聞後援のもと盛大に開催されました。絵画77点工芸25点を会場いっぱい展示しました。

京都支部会員の皆様には展示作業や会期中の当番など大変ご苦勞様でした。



新日美会員作品販売サイト開設と関連のお知らせ

新日美公式ホームページ 担当土屋

- 会員の制作活動の助けになればと作品販売サイトを開設する運びになりました。
- ・作品販売登録希望の方は新日美ホームページ会員専用ページ(以下 HP)から手続き可能です。(基本デジタル入稿)
- ・登録資料はHPからダウンロードできます。
- ・資料は事務局からも入手できます。

販売作品登録希望者⇒事務局

- 販売サイト開設に伴いHPをリニューアルしました。
- ※会員と本部との相互コミュニケーションが少しでも活発になればとの思いです

<リニューアル・追加内容>

- 1 販売作品登録依頼及び関連資料「お知らせ」「概要」「規約」等
- 2 新日美展の記録及び作品画像の最新版掲載
- 3 会員からの情報収集フォーム(問い合わせフォーム)
- 4 会員へ情報発信するためのメールアドレス記載

■会員専用ページ内の暗証番号付きリンク一覧

リンク名	暗証番号	見ることができる内容
会報保管	Open1978-1	発行済みの会報
印刷物書類保管	Open1978-2	応募要項など年次資料
販売作品登録規約	Open2017-1	作品販売のルール
販売作品登録依頼	Open2017-2	メールでの登録フォーム
サポート	Open2017-3	お知らせ、アナログ入稿用紙 Q&A 等

作品販売登録をお待ちしております。

問合せ先: 〒121-0055 東京都足立区加平 3-12-12-601 土屋政夫

委員コラム

私のこと 陳俱子

体力には自信のある私が、右上腕二頭筋長頭腱断裂により右手が使えない時期がありました。手術は年だからしない方がいいでしょう、重いものを持つてはいけませんよ、無理をせず大事に使いなさい」と医師に言われ、絵を描くのはいいですか?」良いけど無理をしないように」という。描けなくなったからどうしよう悪夢だ、とそればかり考えてしまいました。右手がだめなら左手で描こうと思つたとき、今は亡き高松の大川先生の言葉を思い出しました。僕は右手が器用だから左手で描く練習をしているよ」とお食事でも一緒に描きました。大川先生だつて絵のためあれほど努力しているのだから私だつて出来ない事はない筈、前向きに考え左手で線や丸を描く練習をしました。だんだん描けるようになりましたが、ある日、主人が湯船で意識を失つたのを抱えて引き揚げようとして、又右手内中筋を痛めてしまいました。これは一ヶ月ほど治りましたが本当に絵が描けなくなるのではないかと心配した。

久しぶりに長年絵をとともに描いてきた某会の親友にあつて話すと、やっぱり絵を描く者にとっては障害になる事柄をどうクリアするか課題だという。彼女も同じ人物作家なので、モデルのこと、お金のこと、絵を描く時間のことなど話が合う。モデルにお金かかるからあるところへクローキーに行つてよ」とか、お金かかるし暇もない」と言いながら結構いいものを書く。

先生に言われたことがある。暇は作るものだと娘が結婚し孫が生まれ、突然孫を預かることがあつて、モデルが来る日と重なつてしまい孫をおんぶして描いたこともあつた。

作品を手掛けると頭の中は絵のことだらけになり、電車の中でも頭の中でデッサンしている。顔、手、足、足の表情など。また立っている人、座っている人、寄りかかっている人、人体の様子をチェックしている。

人物は騙せないでおかしい処がすぐに分る。描いていると想像力も湧き、絵の中のモデルと会話すると方向性が決まり題名が決まることもある。ポーズをとつてもらい題名を決めてから描いているうち変更したくなることも・・・悩みは尽きない。